

小松電機産業社長 小松 昭夫氏



いま、私は山陰の小さな村（島根県八雲村）から全国へ向けて「一村一志運動」を提唱している。

よく知られている「一村一品運動」がモノで村おこしを目指したのに対

「一村一志運動」提唱

して「コロ、高い志で地域の振興

を図る」というもの。そして運動

の推進役となるのが地域に生きる企業である。

もつ少し具体的にいと、当社

は昨年、HNS（人間・自然・科

学）研究所を設立した。産業の空

「郷土の偉人」。

その偉業、高い志

にスポットを當て

ることで未来への

道筋を發見する、

といふのが運動の

趣旨である。

むろん、「郷土の偉人」はどの

村、地域にもいるはずで、手法も

出版に限らず、石碑の建立や記念

館建設、舞台劇化などいろいろあ

る。企業に行政、住民と三者が一

体になることで心の村おこし、町

おこしにもつながる。その地で生

まれ、育った企業が地域と「共生」

する姿ではないか。高い志のネッ

トワークを目指すこの運動が全国

的、さらには世界に広がることを

私としては期待している。

高い志で地域振興

洞化、高齢化と環境問題など社会、

経済の混迷する状況にあって人

間、自然、科学の新しいかかわり

を見直し、「本物の価値」を創造

する時ではないか、と考えたこと

が背景になっている。このためH

N S研究所では本来の研究開発と

並んで、社会貢献を大きな事業の

柱に掲げており、これを具体化す

るもののが「一村一志運動」だ。

では何をするのか。当社では

の四月にHNS研究所から『周藤

彌兵衛』を小説・児童文学・漫画

の三部作として出版、シンボジウ

ムも実施した。周藤彌兵衛は当社のある八雲村で、江戸時代に村を洪水から守るために五十六歳で一念発起、九十七歳までかかって岩山を切り抜き、川の流れを変えた

「郷土の偉人」。

その偉業、高い志

にスポットを当て

ることで未来への

道筋を発見する、

といふのが運動の

趣旨である。

むろん、「郷土の偉人」はどの

村、地域にもいるはずで、手法も

出版に限らず、石碑の建立や記念

館建設、舞台劇化などいろいろあ

る。企業に行政、住民と三者が一

体になることで心の村おこし、町

おこしにもつながる。その地で生

まれ、育った企業が地域と「共生」

する姿ではないか。高い志のネッ

トワークを目指すこの運動が全国

的、さらには世界に広がることを

私としては期待している。